

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2 次年生 岡田櫻良

1. はじめに

本来、この春休みには現地へ実際に赴き言語を学ぼうと思っておりましたが、あいにくの時勢で旅立せず、今年は自学のほか何か出来ないかと思案していたところに、オンライン留学の案内があり、すぐに参加することにいたしました。

英語を学ぼうかと考えていましたが、1 年次生の授業のときから興味があつてずっと学んでいる中国語を学ぼうと、思い切って BC 学院の中国語 口語コースを選択しました。

2. 授業

1 日 2 コマ、100 分の授業でした。中国語に関しては、1 年次生の選択授業の時、褒められていたのと、自身でも時折リスニングをしていたので、ある程度は授業についていけると思っていたのですが、全く聞き取れないことに驚愕しました。担当講師は初めからとても気さくで、私が目を白黒させていると、英語ベースで中国語の授業をするスタイルにすぐ切り替えてくださいました。

3. 見つかった欠点

中国語の文法は英語と似ているため、作文にはそこまで苦労しませんでした。漢字の見た目からなんとなく意味を想像するのもクイズのようで楽しく、よく頭に入りました。しかし、発音が物凄く難しかったです。その場ではできても、授業後にひとりで発音練習するとどうも何かがおかしく、CD などを購入し、音を聴いてのシャドーイングをすると変な癖がつかなくて良いだろうなあと思いました。家でお皿洗い等をしながら発音やピンインを確認していると、頭の中が中国語でいっぱいになりました。

4. 復習

先生は教科書に沿って、その場の流れで次々と新しい知識を紐づけて教えてくださったため、授業で使ったスライドは知識の宝庫でした。授業後にスライドを送ってくださり、それを次回までに覚えるという課題がありました。

次の授業までに日にちがあるときのみ、作文の宿題が出ました。前の授業で習った単語や文法を組み込んで作文を作って発表し、先生を驚かせるのがとても楽しかったです。

5. 今後

プログラムが終わって半月ほど経ちましたが、いまだに中国語の練習を続けています。

プログラム前と後で一番変わったことは、今まですこし億劫に感じていた発音の練習が、いまや一番集中するポイントとなったことです。現地の方の声を聞き、意思を通じ合わせることは、語学学習への集中度を大きく変えると、再度認識しました。

新型コロナウイルスの感染拡大が収束すれば、お金を貯めて外国へ飛び出して学びたい、と強く思いました。